

地域再生を担う人づくり支援調査

(海士町人づくり協議会)

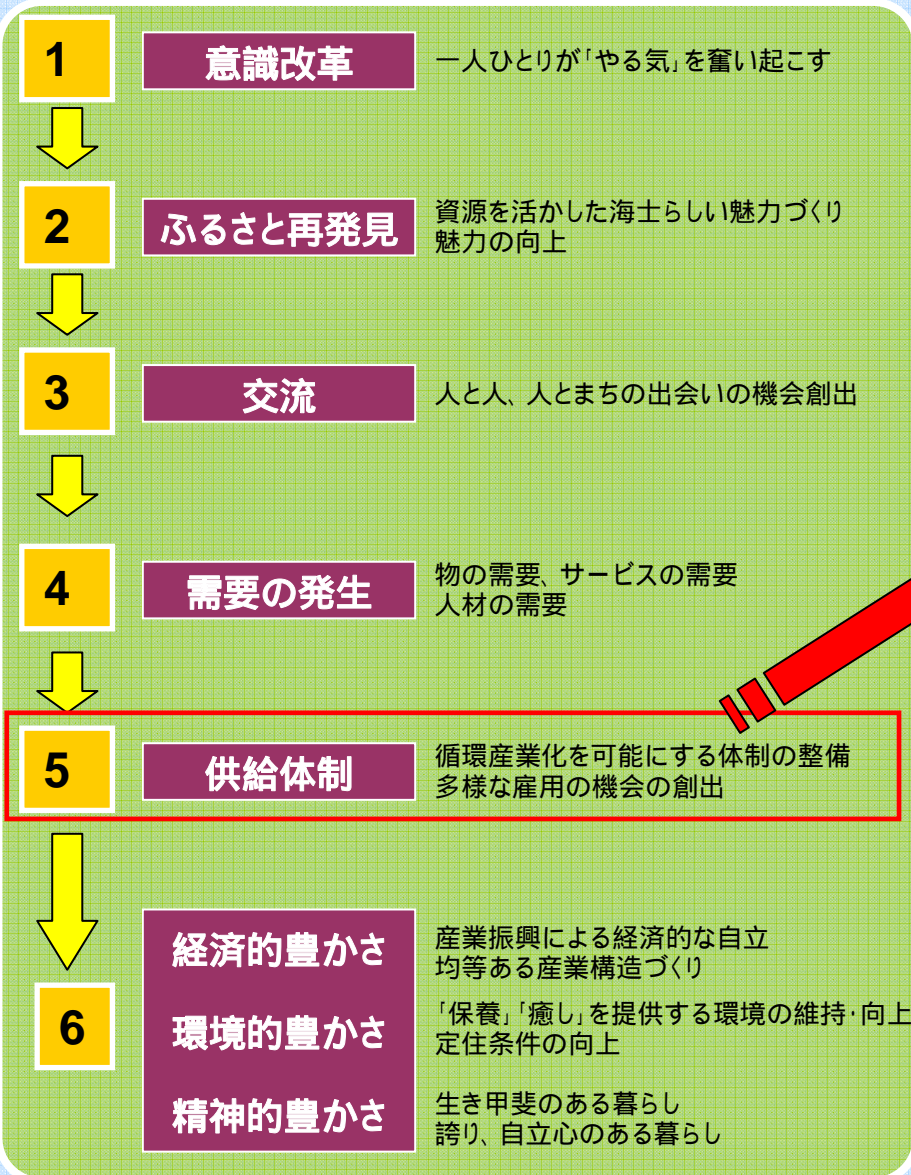
目標

1. 持続可能な産業と雇用の創出
2. 特産品などによる島統一のブランド

以上を研修会をとおして青写真を描き、物産展等へ出展
する中で、更に確認作業を取り組んだ。

現状の把握と整理

これまでの海士町の事業展開フロー



現場	課題
生産	<p>(1)農業・漁業における就業者の減少や高齢化の進展により、生産構造が脆弱化している。</p> <p>(2)その背景には、後継者の深刻な不足があり、その理由の一つには、「獲る」漁業においては資源変動や市場価格の変動を受けるために漁業経営及び所得面で不安定になることがあげられる。</p> <p>(3)一方で、里海の生物多様化の保全といった地球環境問題への対応や持続可能な環境配慮型経営が求められる。</p>
加工『商品開発』	<p>(4)商品開発研修生制度は、産業施策に外部視点の導入がもたらされ、高付加価値商品づくりに大いに貢献した。しかし、独善に陥らず、島内のシーズとマッチングさせるためには、市場(顧客)に近いことは勿論、まず「商品を知ること」が何より大切</p>
流通・販売	<p>(5)自前の流通現場が「ない」ことが問題。すなわち、島でつくられた商品のほとんど全てが島外の大手流通・販売ルートを経由して顧客に提供されているのが現状であるが、直接的なチャンネルによって市場(顧客)と間近で対話することにより、多様化する顧客のニーズとウォンツを直接聞いて、まず「顧客を知ること」が何よりも大切。</p>

車座研修会

これからの海士町の事業展開フロー

1

意識改革

一人ひとりが「やる気」を奮い起こす

2

ふるさと再発見

資源を活かした海士らしい魅力づくり
魅力の向上

3

交流

人と人、人とまちの出会いの機会創出

4

需要の発生

物の需要、サービスの需要
人材の需要

5

供給体制

循環産業化を可能にする体制の整備
多様な雇用の機会の創出

6

経済的豊かさ

産業振興による経済的な自立
均等ある産業構造づくり

環境的豊かさ

産業振興による経済的な自立
定住条件の向上

精神的豊かさ

産業振興による経済的な自立
誇り、自立心のある暮らし



海士デパートメントスクール

人材育成:SRB実践プロジェクト

島独自の流通・販売システム(旅市・行商)

地域の「合わせ技」:交流と需要喚起

海士デパートメントストア

生産から販売までのトータルシステム

地元とUターン生産者の「合わせ技」

(知恵と知識の交流・島内需要の発生)

商品開発:特産品でなく、商品へのこだわり

次からの展開

「島の幸福論」



実践活動など

- 食の感謝祭開催 -

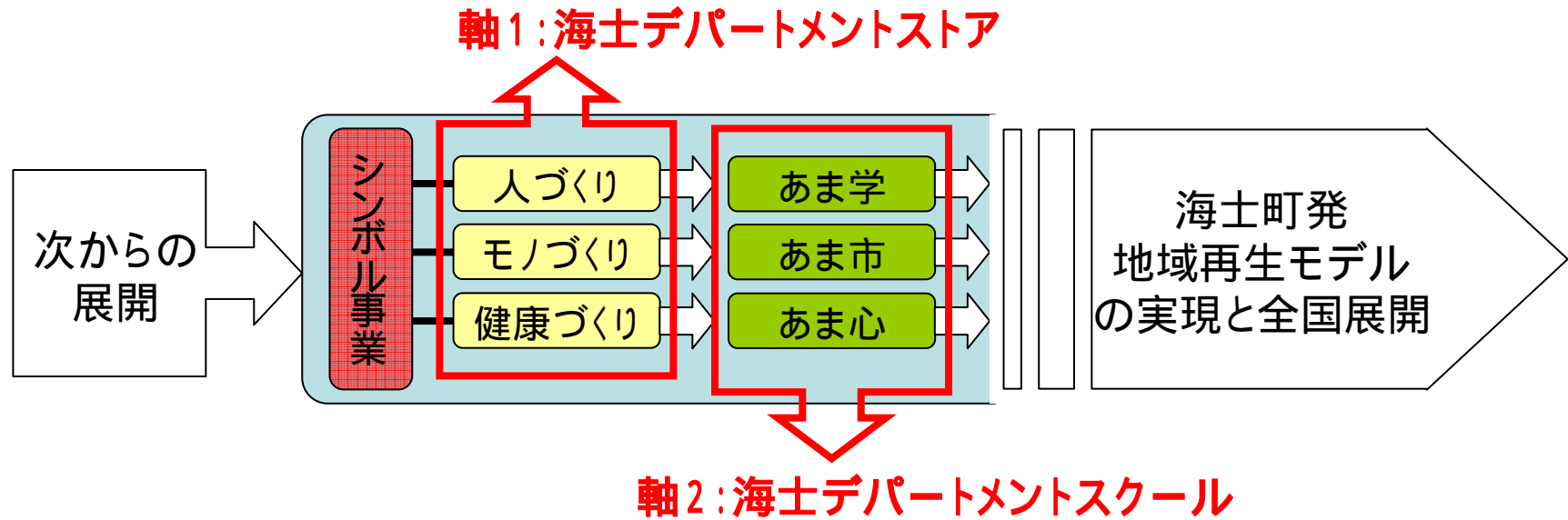


- 全国物産展での出展 -



地域再生の展望

地域再生へ向けた2軸展開



2軸による価値連鎖 (value chain)

